

「ローマ書の道」

マラナサ・グレース・フェロシップ 菊地 一徳氏

それでは今日の主題説教。タイトルは『ローマ書の道』。ローマ書とは勿論ローマ人への手紙のことです。英語では”Romans road”。どっかでこのような呼び名、呼称を聞いたことがある方も多いかと思います。この『ローマ書の道』というのは、ローマ書の中にあられる聖句を追っていくことで、人間個人の救いの道が現れてくるというものであります。これは是非皆さんがノンクリスチャンの人たちに、不信者に福音を分かりやすく、聖書からストレートに、シンプルに語る際に活用して頂きたい方法でもあります。ですからこれは福音伝道のツールになるようなものであるということで、実際にそのローマ書の中で、3章から10章の中にいくつか福音を総括するような重要な聖句があらわれておりますので、その一つ一つを順番に追って見ていくことによって、救いがそこに示されていく。なぜ救いが必要なのか。そして、どのようにしたらその救いを自分のものと出来るのか。最初にその聖句を皆さんに羅列して、順を追ってご紹介しておきたいと思います。後でその一つ一つを説明していきます。

まずはローマ 3 : 23 から始めて下さい。『すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができ』ない。というフレーズから始めて下さい。そこから『ローマ書の道』がスタートします。

次に、ローマ 5 : 8 を開いて提示して頂きたいと思います。『しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。』

その後、今度はローマ 6 : 23 に進んで下さい。『罪から来る報酬は死です。』その続きもありますけれども、『罪から来る報酬は死です。』というところを強調してお伝え頂きたいと思います。ただし、その後『しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。』と続くんですが、その永遠のいのちと呼ばれる救いを、また神の賜物と呼ばれる救い、それは勿論イエス・キリストご自身のことでもありますが、どうやったらそのイエス・キリストを信じ、心に迎え入れ、この神の賜物である永遠のいのちを自分のものと出来るのか。罪から救われるのか。そして天国へ行くことが出来るのか。その方法は極めてシンプルです。

次にローマ 10 : 9 を開いて提示して頂きたいと思います。『なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。』

最後に『ローマ書の道』の最終地点、ゴールです。ローマ 10 : 13 『「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。』

今、ローマ書の 3 章から 10 章にかけて全部で 5 つの聖句をピックアップしました。その 5 つとも全て暗記して頂きたい、暗誦して頂きたい重要な聖句ばかりであります。もう既に皆さんの多くは暗誦していると思いますが、その順番も是非覚えて頂きたいと思います。これが『ローマ書の道』です。ですから皆さんは、これらの聖句を諳んじて、ノンクリスチャンの人たちに順番通りに引用して、そして福音とは何

か。罪から始まって、そしてあなたは罪人ですから救い主が必要です。そして救い主をどのようにしたら心に信じ迎え入れることが出来るのか。一連の聖句を引用しながら、皆さんは明確に、単純に、説明することが出来るかと思えます。ただし、その際、是非とも留意して頂きたいことがあります。これは是非ともお勧めしたいポイントですが、たとえあなたが聖書を暗誦して、^{そら}誦んじて、いつでも引用出来たとしても、福音を宣べ伝える際には、是非聖書そのものを使って頂きたい。福音のツールとして、道具として聖書そのものを皆さんが携帯して、持ち歩いて、そしてそれを実際に彼らの目の前で開いてあげて、そしてその聖句を指で指して、彼らに目で追ってもらう。読んでもらっても構いませんが、そのようなアプローチをして頂きたいと、先ず冒頭にお伝えしておきたいと思えます。たとえ聖書をあなたが引用出来たとしても、それでもなお聖書を使って頂きたい。開いて、見せてあげて、指で指し示して、実際に読んでもらっても良いかと思えます。声に出そうと出すまいと、彼ら自身にその聖句を確認させて欲しいということです。皆さんがいくら口で言っても、「聖書にこう書いてあります。」と言っても、なかなか信じてもらえないかもしれません。でも一度^{ひとたび}あなたが聖書を実際に取り出して、開いて、指で指し示して、「ここにちゃんと、こう書いてあります。」と見せることによって、全く違う効果が現われます。あなたの言うことは眉唾ものかもしれない。でも実際に聖書を開いて、その通り書いてあるということになると、話が別となるということをは是非覚えて頂きたいと思えます。

例えば全然違う話を急にしますけれども、テニスというスポーツ、競技において、プレー中に^{かんしゃく}癩癩を起こすと失格になります。また怒鳴ったり、みだらな言葉を口にするると失格になります。ひどい悪口を言ったり、いやらしい態度をとったり、怒ってラケットを投げたり、何かにラケットをぶつけたり、怒ってボールを投げつけるとか、相手方を騙すとか、わざとぐずつくとか、大声を出して腕やラケットを振り回したり、音を立てたり、わざと相手方の気を乱す。そういう行為をプレー中にすると、失格になります。と、私が言っても皆さんは、あまり信じないかもしれません。別に私はテニスプレーヤーでも何でもありませんから。でもそうしたルールが、しっかりテニスのルールブックに書いてありますと、実際にテニスのルールブックを持って「ここにこう書いてあります」と、実際にルールブックを開いて、指で指し示して、相手にそれを見せるならば、「あっ、確かにそう書いてある。」と。あなたが、たとえテニスのプロでなくても、専門家でなくても、愛好家でなくても、それでも相手も勿論テニスに興味がなくとも、ルールブックを見せつけられて、そこにその通りに書いてあることを指し示されてしまうと、もう文句のつけようがありません。「ああ、確かにそうなんだ。」と、納得がいくわけです。それと同じように、もし皆さんがいくら聖書を知っていて、エキスパートで、『ローマ書の道』をいつでも^{そら}誦んじることが出来て、相手にそれをいつでも伝えることが出来たとしても、なかなか相手の方ではピンと来ないかもしれません。でも一度あなたが、おもむろに聖書を取り出し、ローマ書を開いて**3章**から指し示すならば、「**3章 23節**、見て下さい。」と、指で指します。「こう書いてあります。目で追って見て下さい。口に出して読み上げてみて下さい。確かに書いてありますね」と。そうすることで全く違う効果が得られるということ、皆さんには是非覚えて、そして実際に使って頂きたいと思えます。実は、エホバの証人というグループは常に聖書を持ち歩いています。皆さんの玄関にもピンポンしてきますね。彼らは、ものみの塔いう小冊子を使うこともありますが、実際に彼らは聖書を開いて、聖句を指し示して、そして人々に“彼らの言う福音”というものを伝えようとします。聖書を開かれると、聖書は権威あるものだという漠然とした認識が人々にありますので、取り込まれてしまって、「ああ確かに、聖書という権威ある書にそう書いてある」と。指でさされて、指し示されると、どうも納得しやすくなってしまふ。そういう効果は異端ですら、カルトですら、知って活用しているんです。エホバの証人を全くそっくりそのまま真似て、同じことをしなさいと私は勧めているのではありませんが、彼らは偽りの聖書を使いながらも、それでも人々の心に聖書を使って訴えようとしています。で、それはある一定の効果を上げております。聖書を使って布教活動することで、エホバ

の証人たちはその教勢というものを爆発的に増やして来ました。残念ながら彼らの使っている聖書は、自分たちの教理に合わせて都合良く改編されたものですから、これはあってはならないことで、私たちはそんなものをのさばらしておくというのは、許されないこととしても受け止めたいとは思いますが、是非私たちは本物の聖書を、真理の御言葉を、手元に持ち歩くものとして是非活用していきたいと思ひます。

で、今から『ローマ書の道』を 3 章 23 節から順番に見てまいりますけれども、その前に今私がお話した聖書そのものに力がある、パワフルだということを確認して頂きたいと思ひます。第二テモテ 2 : 15 を先に開いて頂きたいと思ひます。『あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。』福音を宣べ伝える際に「どうも私は恥ずかしい。躊躇^{ちゅうちよ}してしまう。遠慮がちになってしまう。大胆になれない。自信に満ちていないから。」真理の御言葉を是非手元に用意して頂きたいと思ひます。

そして、第二テモテ 3 : 15 後半を見て下さい。『聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。』“真理のみことば”、すなわち聖書は、あなたに知恵を与えます。どうやったら効果的に、どうやったらストレートに、どうやったら分かりやすくシンプルに、福音を宣べ伝えることができるのか。色々な方法論、いろいろなアプローチ、色々なツール、いろいろなセミナーを渡り歩いて、伝道方法みたいなものを私たちは身につけようと躍起になるかもしれませんが、聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができる力があります。その後の 16 節、17 節も是非読んで頂きたいと思ひます。『¹⁶聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。¹⁷それは、神の人が（私たちクリスチャンが）、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。』聖書があなたをトレーニングします。

で、次にヤコブ 1 : 21。また、後半の部分に目を留めて下さい。『みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。』聖書の言葉そのものにパワーがあります。第一コリント 15 : 2 もお読みします。『また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。』“この福音によって救われるのです。”とあります。ローマ 1 : 16 には『私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。』福音は、救いを得させる神の力だと。

同じようにパウロは第一コリント 1 : 18 でこう述べています。『十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。』爆発的な力です。原語は“デュナミス”と言ひます。ダイナマイト、ダイナミックの語源であります。

そして皆さんのお馴染みのヘブル 4 : 12 『神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。』神の言葉は、力があります。

で、もう 1 カ所イザヤ 55 : 11 もお読みします。『そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。』神の言葉の力を信じて下さい。あなたの巧みな話術を信じてはいけません。でも、神の言葉の力には、絶対的なパワーがあるということこそ是非信じて欲しいと思ひます。その上で、是非聖書を実際に使って頂きたいんです。伝道のツールとして、手元に置いて、開いて頂きたいと思ひます。『ローマ書の道』であるならば、新約聖書だけでも ok です。ですから、ポケットサイズの小さな聖書でも良いと思ひます。ギデオンの聖書でも良いと思ひます。いつでも携帯して、持ち歩いて開けるように、指で差し示せるように、用意して頂ければと思ひます。その上で、『ローマ書の道』を今から皆さんとともに辿って行き

たいと思います。

ローマ 3 章 23 節からスタートします。『すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができ』ない。“すべての人は、罪を犯したので、” 神様の基準には満たない。神様の標準に合わせて生きることは出来ない。それがまさに罪人という姿であります。聖書で“罪”という言葉は、ギリシャ語では“ハマルティア”と言います。その原意は、「的を外す」ということ。かつてはアーチェリーの競技で的を外すと“ハマルティア”と呼んだわけです。この的というのは、まさに神の栄光。言い換えれば神様の望まれること、神様の基準。それから外れて生きることは全ての外れで、それが罪の生活ということです。そのような生き方をしている者は、皆罪人であります。他にも 3:10 のところには、『義人はいない。ひとりもいない。』とハッキリ書いてあります。強いて言うならば、例外的に人となられた神、イエスキリスト以外は、誰も「私は義人です。私はこれまで 1 度も罪を犯したことはありません。私は完璧な者です。完全無欠な者です。」と、言い張ることが出来る者は、他にいません。イエス以外に。イエスは罪を犯したことはありません。そのことはイエス自身も表明しているところですが、イエスの家族も、親戚も、そしてイエスの敵たちも、イスカリオテのユダも、またポンテオ・ピラトも。敵ですら、イエスには罪がないということをも十分に認識して、認知して、それも公表すらしめたわけです。イエスだけ例外ですが、他のすべての人は、全員もれなく罪人であります。先ほど罪の定義として、“**的外れ**”という話をしました。まあ、期待されている標準に、基準に、満たない、適さない、外れている状態です。聖書の中で罪の定義というのは、他にも**第一ヨハネ 3:4**にも書いてあります。『**罪を犯している者はみな、不法を行なっているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。**』聖書的にはその**的**というのは、神の律法だと言われています。言い換えれば神の言葉ということです。なかなか人々は、自分の罪を認めようとしません。「別に私は法を犯しているわけでもありませんし、罪人呼ばわりされる筋合いはありません。」なかなか人は自分の罪を認めようとはしません。でも聖書によれば、『**罪とは律法に逆らうことなのです。**』律法という**的**から外れる。それらが全て罪だと言われております。三浦綾子さんは「神の御言葉 1 つでも実践しようとしたら、すぐに自分が罪人であることが分かります。」と語りました。ですから、自分の罪を認めない人たちに是非伝えて頂きたいと思います。もし、その人たちが罪人ではないと言うならば、三浦綾子さんの言われたように「神の御言葉 1 つでも実践しようとしたら、すぐに自分が罪人であることが分かりますよ。」と伝えて頂いても良いと思います。

さらに、**第一ヨハネ 5:17**にも罪の聖書的な定義が記されております。これが極めつけだと思います。罪とは何か。『**不正はみな罪ですが、死に至らない罪があります。**』前半の『**不正はみな罪である。**』または『**不義はみな罪である。**』とも訳されます。この部分はむしろ、『**すべての不正は罪である。**』と訳した方が適訳だと思います。または、『**すべての不義は罪である。**』これ以上ない罪の定義だと思います。すべての正しくないことは全部、何もかも罪だと。あなたは、毎日正しいことを考え、正しいことを行っているでしょうか。法律に違反していなくても、それは悪いことだと知りながら、もしあなたがしているならば。また邪念を抱くならば。聖書によれば、それらは全部不正とされています。不義とされていますので、罪だと言われています。本当は分かっているんです。自分が罪人であるということ。誰もがその事実を知っております。罪の現実には誰も否定出来ません。あなたが自分の子供に嘘をつくことを教えなくても、子供の方では自然に嘘をつくことを始めます。どこから身に付けたか分かりませんが、いつの間にか。この事実も誰も否定出来ません。聖書によれば、人は生まれながらに罪人であって、すべての人は例外なく罪人ですから、罪を犯すことを教えなくても、人は生まれながらに罪人ですから、もう罪を行うことを知っているんです。で、それを実際にするんです。罪を犯したから罪人になるのではありません。罪人だから罪を犯すんです。これが事実です。これはクリスチャンじゃなくても否定出来ない現実であります。

イエス・キリストはこう言われました。マタイ 5:48『あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。』もしあなたが、罪がないならば、この命令に聞き従うことが出来ると思います。でも実際にどうでしょうか。完全であること、パーフェクトであること、出来るでしょうか。完全無欠であるということ、あなた自身、実践出来るでしょうか。

また、同じくマタイ 5:21~22 では、イエスはこう言われました。『²¹昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。(そうです。私は人殺しなんかしたことはありません。だから私は罪人ではないんですと。)²²しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし。』と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、『ばか者。』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。』ムカッときたら、アウトです。馬鹿野郎なんて思ったら、アウトです。運転中、どうでしょうか。いきなりウインカーもなしにあなたの目の前に車が入ってきたら、どうでしょうか。口に出さないまでも、心の中では口汚く罵^{ののし}ってはいないでしょうか。

また、同じくマタイ 5:27~28 『²⁷『姦淫してはならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。(そうです。私は結婚していますが、浮気など一度もしたことはありません。不倫など一度もしたことがあります。また、結婚していませんが、私は性的不道徳など行ったことはありません。風俗店に行ったことなんかありませんよ。不特定多数の異性とセックスなんかしませんよ。)²⁸しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は(女性ならば男性を、異性を。)、すでに心の中で姦淫を犯したのです。』まあ、同性愛の罪を抱えている人は、同性でももちろん該当します。情欲をいだいて人を見るならば、男であろうと女であろうとアウトです。ムカついたり、怒ったり、憎んだり、罵ったり、情欲の目で人を見るならば、その時点であなたは罪人です。その時点であなたは的外れ、づれ人になったわけです。文字通りは、罪人とはづれ人です。すべての不正は罪です。神の律法に反逆しているわけです。アメリカの有名な医者で、精神科医でもあって、精神分析学の第一人者と呼ばれている方がおります。まあ、この方はもう亡くなった方ですけども、カール・メニンガーという人がいます。このカール・メニンガーという人は、彼の著作もベストセラーとなって、日本語にも翻訳されて出版をされているんですが、精神分析の世界で知らない人はいません。このカール・メニンガーという人が、こういうことを言いました。精神病棟にいる患者に対して「もし、私が彼らに「過去の過ちはすべて赦されたんだ。」ということ伝えて、彼らを説得出来たならば、入院病棟の75%はその日のうちに空っぽになる。」と言いました。または「もし私が精神病院に通ってくる患者に、「あなたの罪は赦されました。」と説得出来たら、確信させることさえ出来れば、もう75%の患者は翌日から診察に来ない。」と言っているんです。つまり何が言いたいかといいますと、すべてのいわゆる精神病と呼ばれるもの、または心の病などと表現されるもの、そのほとんどは罪が原因だということです。過去に犯した過ちがその人を苦しめて、その人の精神を破壊して、破綻状態^{はたん}にしていると言っているわけです。75%という数字は非常に高いものだと思います。精神病というレーベルをつけられる病を言っているのではありませんが、ただ現場で働いている医師がそう言うわけですから、私の言葉ではありません。75%の人たちは、罪が原因でカウンセリングや、またはいろいろな精神分析の、心理学の、力を借りながら、または治療薬を飲んで、何とか自分を保っている。何とか精神のバランスを保っている。何とか心の平静、安定を保っている、と言っているわけです。でも、ひとたび「あなたの罪は完全に赦されました。」ということをして、その人が確信出来るならば、そういう保証を得るならば、もうその人は心も晴れやかに、心の傷も完全に癒され、悩みからも解放され、苦しみからも、責められる・罰せられるそういう恐れからも、不安からも、何もかも全て瞬時に解放されて、その人は健康そのものになると言っているわけです。これも否定出来ない事実であります。精神科医の専門家たちにも聞いて頂いても構いません。それが事実であります。本当は精神病院に通わなくてもいいんです。

本当は心療内科に行かなくてもいいんです。本当はカウンセリングなど受けなくてもいいんです。本当は薬に頼らなくてもいいんです。罪の赦しさえ得られれば、人は癒されるんです。人は解放されるんです。ほとんどの悩みから、ほとんどの苦しみから、人間関係のもつれもそうです。漠然とした恐れからもそうです。「もうすぐに私はパニック障害になってしまいます。」とか、「もう夜も眠れないんです。物を食べてもすぐに戻ってしまうんです。拒食症です。過食症です。抗うつ剤を飲まなければ。」とか、そういう人たちは皆罪の問題に悩み苦しんでいるんです。ですから、聖書は、すべての人は罪人である。例外なく全ての人は罪という問題をかかえている。それが目に見える形で、または目に見えない形で、ありとあらゆるトラブルの原因となっているということ、昔から、少なくともローマ書は今から二千年前の、それこそ文字通りの古文書であります。古事記や日本書紀よりもはるかに古いものです。日本で言えば弥生時代の書物。それは今も変わらない真理であります。二千年前に語られていることが、二千年後の科学万能の時代の現在においても、それが変わらない。それが神の言葉である所以でもあります。神の言葉は変わりません。なぜならば、真理だからです。真理はどの時代においても、どの世相においても、どのカルチャーにおいても、変わらないものです。普遍的なものです。いつでも通用するものです。その聖書が言っているんです。『すべての人は罪を犯した。』これがすべての問題の始まりである。ですから、聖書は明らかに「あなたが罪人であって、あなたにはその罪からの救いが必要である。あなたは自分を救うことは出来ない。あなたには救い主が必要である。」ということをお訴えかけます。その点を先ず皆さんも伝えて欲しいと思います。いきなり天国の話をしてピンときません。いきなり地獄の話をしてピンときません。でも、「あなたは罪人である。」罪という現実を、先ず伝えて欲しいと思います。そして、「あなたには間違いなく罪からの救いが必要である。救い主があなたにはどうしても必要なんだ。」ということをお訴えかけたいと思います。イエス・キリスト以外には救いはありません。救いの道は、他にいくつもあるわけではありません。強いて言うならば、あなたが完璧になれるのであれば、あなたは救われる必要もありませんし、救い主は不要です。もし、あなたが完璧ならば、です。罪人と一口で言っても、いろいろなレベルがあります。ある人はある人よりも遥かに罪深いか、その罪の度合い、罪のレベル、罪の深さ、罪の大きさ、比べればそれぞれ違いがありますが、神の目には全ての人は等しく、救い難い、どうしようもない、おぞましい罪人にしか映りません。

ここに3人の人がいると仮定してみてください。1人は世界の最低レベルにある死海に立っております。世界で1番低いところが死海です。もう1人は世界で1番高い地点、最高地点にいます。それはエベレストの山頂です。で、もう1人は長野で身近な例えば飯縄山だとか、戸隠山に立っているとします。それぞれ立っているところは全然違います。片や海拔下にいます。世界で1番低い死海にいます。エベレストの世界最高地点にいる人から見れば、えらい低いところに、この人は最低だということにしているわけです。もちろん死海の方からエベレストを見上げれば、とんでもない高いところにその人は立っているわけです。まあ、その中間ぐらいに飯縄山の人が、「自分はその人よりも悪くないし、でもこの人ほどは素晴らしくない。まあ大体そこそこ。ミドルクラスと。」まあ、そんな人が大半かもしれません。でも、神様の栄光という基準から比べるならば、神様の聖さ、基準というものから、そういう尺度で測るならば、たとえばそれが例として、地球と月の距離とを考えてみてください。月に到達するために一生懸命人は頑張って高くジャンプしようとしています。世界最低地点の死海の人でも一生懸命ジャンプして月に届こうとします。で、世界最高地点にいるエベレストの山頂の人でも一生懸命ジャンプします。で、飯縄山の山頂にいる人も何とか頑張って月に届こうとします。でも、月から見れば、地球のどこでジャンプしようとしたかが知れているわけです。何の差もありません。絶対にどうあがいても、どう頑張っても、届きようがないことを認めざるを得ません。ですから、人と比べて「私はその人よりもマシだ。あれほど悪くはない。あんな凶悪犯ではないんです。」と、あなたが自分のことを正当化しようとしても、実際のところは何ら変わらないということです。

あなたはウサーマ・ビン・ラーディンとも何の変わりもありません。麻原彰晃とも何の変わりもありません。あなたも彼らも皆、神の前では等しい罪人に過ぎません。ですから、比べるならば是非完璧なお方イエス・キリストと比べてみて下さい。この方と比べて遜色そんしよくがあるならば、欠けがあるならば、あなたは明らかに罪人であります。「イエスとまったく同じです。瓜二つです。」と言うならば、あなたは義人ですから、あなたは救い主を必要としない者とみなされますが、そんな人は歴史上 1 人もおりません。これも誰もが認めざるを得ない決定的な事実であります。すべての人は罪人であります。義人は 1 人もいません。それがたとえ目に見える行為に、表面的に現れなくても、心の中でも私たちは罪を犯しますから、誤魔化しようがありません。神様はあなたの心をご覧になっています。

で、その上で『ローマ書の道』として、ローマ 5:8 に進んで頂きたいと思います。ローマ 5:8 をその未信者の友達の前で開いて頂いて、また家族の前で実際に開いて、そしてそこに指をさして、一緒に読んだり、読ませるなりして頂きたいと思います。『しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。』“私たちがまだ罪人であったとき”というのは、言い換えれば、私たちが最低の時、最悪の時です。考えさせて頂きたいと思います。自分のことも考えて欲しいと思います。あなたが最低だった時、最悪だった時、取り返しのつかないことをしてしまった時、後悔しきれないようなことをしてしまった時、ここに書いてあることをもって、神の愛の大きさ、深さ、広さ、高さに、人知を超えたこのキリストの十字架の愛に思いを馳せて頂きたいと思います。その時でもイエス・キリストは、あなたを愛しておられたということです。そんな取り返しのつかない罪を犯したあなたのために、イエスは罪のない体を捨てて下さって、私たちのために文字通り引き裂いて、結果血も流れました。おぞましい十字架の上に釘で磔はりつけにされたんです。人類が発明した、最も残酷な痛ましい処刑法で、21 世紀にこの十字架刑は存在しません。それがあまりに人道主義に反するからです。人間に最も長く最大の苦しみを与えるために発明されたものです。あなたが本来はそのような刑罰を受けるべきだったんです。そんな罪を犯したあなたが、大手を振って歩けるはずがありません。即刻その場で、その罪を犯したその瞬間にあなたは十字架刑にされても不思議ではなかったんです。しかもあなたは、神様と永遠に引き離されて、地獄の炎で永遠に苦しみ続ける。それも本来受けるべき罰であったわけです。にもかかわらず、そんな罪人が、どうしようもない、自分を救いようのないそんな者たちを、神様は憐れんで、恵みを持って、私たちのために救い主をこの地上に送って下さったんです。その方は、神のひとり子です。たったひとり子を、私たちに与えるほどに、神は私たちを愛して下さいました。ヨハネ 3:16 にもそのことが書かれております。『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。(あなたのことを、私たち罪人をも愛された。) それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。』

で、今度はローマ 6 章 23 節に『ローマ書の道』を辿って進んで頂きたいと思います。『罪から来る報酬は死です。(罪の結果は死です。)しかし、神の下さる賜物は(ギフトは)、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。』皆さんが伝道する対象、ノンクリスチャンの相手においては、ひょっとしたら「私は確かに罪人です。確かに私には罪があります。でも私には罪悪感など一欠片ひとかけらもありません。やりたい放題、好き放題、思いのままに、欲望のままに、本能のままに、私は好きなことをやっていますけれども、何の罪悪感も、罪責感もありません。罪を犯していたって何の問題もないです。むしろ楽しいです。ストレスも解消出来ます。罪を犯していたって私は何の良心の呵責も感じません。心も痛まないんです。罪を犯したって何にも感じません。」と言う人も現れるかもしれません。でも、そういう人に是非伝えて欲しいと思います。罪は実に重いということ。そしてもう一つ伝えて頂きたいことは、「死体に漬物石を載せて

みて下さいと。その死体は、その死人は、重いと言うのでしょうか。もちろん死体は重くとも言いませんし、何も感じないわけです。思いっきりその漬物石をその死体に叩きつけてみて下さい。その死体は痛いと言うのでしょうか。当然何も感じないわけですから、叫ぶことも致しません。悲しむことも致しません。痛がることは、有り得ないことです。もしあなたが「罪を犯しても何も感じない。」と言うならば、あなたはそれほどまでに死んでいる、と言っているわけです。あなたは完全に死んでいると。生ける屍、ゾンビだと。あなたの状態、コンディションはまさに死体と同じだ。」と伝えて欲しいと思います。「何の罪悪感も感じません。何の良心の呵責も感じません。好き放題やっても何の痛みも感じません。」と言う人に対しては、「あなたはそれほどまでに死んでいるんです。」とハッキリ伝えて欲しいと思います。「あまりに死んでいるから、あなたは何も感じないだけなんですよ。」と。「罪は死をもたらすと、この聖句は教えています。『罪から来る報酬は死です。』」と。で、この死というのはもちろん永遠の死のことを指しているんですけども、でも永遠の死だけではありません。永遠の滅び、地獄に墮ちるという意味の死だけではありません。罪は現在も私たちを殺し続けます。ありとあらゆる人間関係を破壊するのもこの死であります。あなたの健康も破壊しますが、あなたの人生そのものも破壊します。破滅へ誘^{いざな}うのは、この罪であります。そもそも罪と言うものは、神様との関係を破壊したことに端を発します。最初の人^{アダム}が犯した罪、それが original sin “原罪” と呼ばれるものですが、それについてはまた聖書の最初の書物、創世記を開いて、たとえば 3 章を開けば、説明することも出来ますが、その前にイザヤ 59 : 2 を皆さんに見て頂いて、確認をして頂きたいと思います。『あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。』罪が神との関係を分断してしまった、破壊してしまった、断絶状態にしてしまったということです。創世記 3 : 3 において、神様が食べてはならないとしたあの禁断の木の実、その実を食べると、善悪の知識の木の実を食べると、あなた方は必ず死ぬと、主は言われました。実際にその警告を無視して、最初の人アダムとエバは、その禁断の木の実を食べてしまいました。結果、彼らは死にました。肉体は即死しませんでしたでしたが、瞬時にして彼らの霊が死んだんです。罪を犯すと霊が死にます。で、霊が死ぬと、人間には霊だけではなくて、魂と肉体があります。人間は神の似姿に、かたちに似せて造られましたので、神様は三位一体の神と呼ばれます。父なる神、子なる神、聖霊なる神。子なる神が、イエス・キリストのことでもあります。人間もまたそのような三位にして一体の存在、霊と魂と肉体によって人間は構成されております。でも、罪を犯した結果、霊が死んだんです。で、霊が死んだ結果、魂は神様と分離されました。神様と、もう繋がれないわけです。交わりが持てないんです。自由に、かつてのエデンの園のように、神様と会話を楽しむということが出来なくなりました。何のために生きているのかも分からなくなりました。三位揃って初めて人間はバランスを持つことが出来ます。安定して生活出来ます。でも、霊が死んだことで、魂が神と分裂したことで、離れたことで、人間はガタガタと崩れ落ちて、そして実際のところ、何をしても満足出来ない。むなしい。そして漠然と何か心にぽっかり穴が空いたような、あるべきものがない。こんなはずじゃないのに。こんなものじゃないのに。虚しさが常につきまとうようになります。そして、罪を犯した瞬間に、人間は死に始めたんです。肉体も、結果的には死ぬ羽目になりました。ですから、確実に全ての人は死に向かっているわけです。オギャーと産声を上げたその瞬間から死に始めるんです。もちろん最初のうちは成長しますがけれども、でも確実に死の階段を進んで行くことになります。人間は生まれたら死ぬ運命にあるんです。死ぬしかない存在なんです。死だけを考えれば、もう生きていても意味がない、仕方がない、無意味だ、何をしたらどうせ死ぬんだから、生きていてもしょうがない。それが現実であります。でも、そんな現実を考えれば生きていけないので、人々は死を考えないようにします。死ぬことなんて考えたくないんです。若い人は特に自分が死ぬなんて夢にも思いません。まだ将来があると思っています。でも明日があるという保証は 1 つもありません。ある時急に小学校に登校中クレーン車が突っ込んでくるなんてこともあるわけです。ある

時急に大地震が発生して、想定外の大津波が、ビルの4階ほどの高さの大津波が襲ってくるなんていうこともあるわけです。昨日までの日々は一変してしまう。これまで見ていたものがすべて消えてなくなってしまう。姿を変える。何もかも失う。そういう日が突如襲ってくるわけです。そんなことを考え始めれば、もう生きている心地はしません。死ぬのは怖い。死んだ後どうしよう。どうなるのか分かりません。天国に行けるのか、地獄に行ってしまうのか。罪が全てそれらをもたらしました。何をしても虚しい。ただ、死を待つだけの不安と恐れと暗闇の中に、生きる目的を失って、何処へ行くのかも分からない。それが、罪がもたらした破壊的な結果であります。罪というのは悪いものです。よく、これは私が皆さんにお伝えしていることですが、聖書の中に、これが罪ですということがたくさん書いてあります。先ほども冒頭で罪の定義として、すべての不法は罪だと言いました。罪は、聖書で禁じられているから悪いものではありません。「聖書にそのように書いてあるから、これは悪いことなんだ、人はしてはいけないんだと。聖書に書いてあるからダメなんだ。」ではないんです。そうではなくて、罪は禁じられているから悪いのではなくて、罪は悪いから禁じられているんです。罪が私たち人間にどんな破壊を破滅をもたらすのか、神様はよくご存じです。私たち以上にご存知ですから、ですから聖書の中に「罪は悪い。罪を避けなさい。近づいてはいけない。」そう禁じてくれているわけです。**ヤコブ 1:14~15**にこう書いてあります。『**14人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。15欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。**』常に罪は死を生みます。死というのは永遠の死だけではないと言いました。永遠の滅び、地獄行きだけではないと言いました。罪は現世においてもあなたに死をもたらします。肉体の死以上のもの、すべての生活にあなたは死を見ることになります。健康も失います。人間関係も失います。あなたはもはや自分の理想通りに生きられなくなります。罪があなたを縛り付けるからです。がんじがらめになってしまうんです。罪があなたを完全に拘束します。イエスも言いました。**ヨハネ 8:34**『**罪を行なっている者はみな、罪の奴隷です。**』と。罪の奴隷になり下がってしまうんです。もう罪を犯さなくては生きていけないような、そんな窮屈な、常に罪にがんじがらめにされた、罪の縄目、罪の枷^{かせ}を負うような人生をあなたは送り続ける羽目になるんです。もう罪が止められなくなってしまうんです。罪を犯さないで生きることが、不能になってしまうんです。でもイエスは同時に言いました。「**あなたがたが真理を知り、真理はあなたがたを自由にしますと。**」罪の束縛からあなたを解放するのはイエスであると、同じく**ヨハネの8章**で言われております。その真理とはもちろんイエス・キリストのことです。**ヨハネ 14:6**にもあるように、『**わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。**』と。イエスだけが唯一の道です。イエスが真理で私たちを罪の束縛から解放するお方です。イエスを信じれば、天の父のもとへ、すなわち天国へと私たちは導き入れられるわけです。天国行きが保証されるわけです。そのために永遠の命も備えて下さいます。死んでもなくなる命です。ですから、もう死も、もはや力を持たなくなります。死だけはどうにもならないと、多くの人は思いますが、イエスは私たちのために、罪を全て十字架の上で負って、贖って、そして3日目に甦って下さいました。死を打ち破られたんです。これまで最大の敵だと思っていた死が、この救い主の力によって、復活によって、打破されたんです。打倒されたんです。死はこのイエスの復活の力によって、復活の命によって、飲み込まれてしまいました。ですから、もはや私たちは、死を恐れる必要はなくなりました。私たちの行き先は、確定しました。イエスを信じるものは、永遠の命を頂いて、天国に行くことが出来ます。だから死は怖くありません。死は、ただ天国の扉のようなものだと受け止めることが出来ます。死んだら即時に天国です。素晴らしいです。死んだ瞬間、あなたは天国へ引っ越すんです。何を恐れる必要があるでしょうか。むしろ、死ぬことすら楽しみになります。ワクワクしてきます。

先ほど読んだ、『ローマ書の道』の中でストップした**ローマ 6:23**には『**罪から来る報酬は死です。**』と、ありますけれども、そこで終わったら本当にすべて虚しいと。たぶん生きがいもありませんし、「生きてい

て何の意味があるのでしょうか。無価値です。」と、絶望的になってしまいますが、幸いなことに、その後には続きがあります。『しかし(嬉しい言葉です。)、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。』絶望的な私たちに、神様が救いの手を差し伸べて下さいました。神の下さる賜物。賜物と言うのは、英語では“ギフト”と言いますが、ギリシャ語では“カリスマ”と言います。カリスマと言うのは、カリスというギリシャ語の“恵み”と言う言葉から派生したものです。その“カリス”に“マ”という言葉がつくと、“目に見えない恵みが、目に見える形で表される。“マ”と言うのは、目に見えない物を表すという意味があります。“カリスマ”恵みが見える。それが賜物であります。もちろん恵みというのは、皆さんはお分かりのように、それは“功なくして得るもの”です。何の働きもなくとも得るものです。分不相応な者に与えられる過分な親切と言うものです。当然受けるべきでないものを受けるわけです。それが神の賜物、カリスマです。ただ、どうしても日本語で賜物という言葉を使いますと、“努力の賜物”なんていう言葉を思いついてしまうので、「やっぱり神の賜物を得るためには、私たち人間側の努力が必要なんでしょうねと。教会に通わないといけないんでしょうね。教会のルールに従わないといけないんでしょうね。それは堅苦しいです。それは辛いです。献金をしなきゃいけないんでしょうね。聖書を毎日読まなければ、お祈りしなければ、○○しなければ。そうでないと、この賜物は勝ち取ることは出来ないでしょうね。」尻込みしてしまうかもしれません。でも、聖書で言う賜物はカリスマですから、恵みです。ギフトです。あなたにそれを受け取る資格がなくても、神様は一方的に下さるものです。あなたの努力は不要です。全く必要ありません。神様はあなたにひとり子という賜物を下さいました。『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに。』神の賜物とはひとり子イエス・キリストです。イエス・キリストを受け取るためには、あなたの努力は要りません。あなたのために、神の子は天からわざわざこの地上に、この罪の世界に下って来て下さったんです。あなたがどうやって神の御子を天からこの地上に引き下ろすことが出来るでしょうか。無理です。まず、そもそもあなたは天国に行くことは出来ないからです。あなたが天国に行ければ、最初から救いなんか必要ないわけですから。この賜物を得るためには、あなたは天に行かなくてはいけません。でも、イエスの方で下って来て下さったんです。それがクリスマスです。その賜物はあなたの努力とは全く関係なく、一方的に神様が与えて下さる恵みであります。あなたは神の恵みによって救われたんです。ヨハネ 6 : 28~29 にこう書いてあります。『**28**すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行なうために、何をすべきでしょうか。」**29** イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」』言い換えれば、「救われるためには、天国に行くためには何をしたらいいでしょうか。どんなわざを、行いを、しなければいけないのか。」と **28** 節で人々は質問してきました。この“神のわざ”と訳出されているところは、原語では、“わざ”の部分は複数形です。“神のわざわざ”と言うことです。そんな日本語はもちろんありませんが、「たくさんのをしなければ、あれもしなきゃいけない。これもしなきゃいけない。お布施をしなきゃいけない。苦行をしなきゃいけない。こんな犠牲を払わないといけない。こんな努力をしなきゃいけない。そうでなければ、神の賜物は手に入れることは出来ない。救いを獲得出来ない。」と、人々はそう思うわけです。ところが、イエスの方では、きっぱりこう答えました。『**あなたがたが、神が遣わした者を(イエス・キリストを)信じること、それが神のわざです。**』これは原語では単数形です。強いて言うならば、あなた方がしなきゃいけないことはたった1つです。で、もちろんそこには何の努力も必要ありません。それはイエスを信じることです。神の賜物をただ有難く頂戴すること。努力なんか全く要りません。小さな子供でも出来ます。「これはあなたへのプレゼントだよ。どうぞ。」子供は一生懸命努力はしません。「ありがとう。」と言って喜んで受け取るだけです。そこには何の力も要りません。何の頑張りも要りません。ただ受け取るだけです。それが、イエス・キリストを信じるということです。ただ、神の賜物・ギフトを「ありがたい。こんな私にいいんですか。」へりくだりをもって頂くことです。感謝をもって受け取ることです。結果、あなたは永遠の命を自

分のものとする事が出来ます。イエス・キリストがあなたの罪のために十字架にかかって死んで下さった。あなたのすべての罪は赦されたんです。どんな罪でもです。過去に犯してしまった取り返しのつかない罪も、今現在、どうしても止められないでいる、繰り返してしまう、その罪も。これから先ももっと大きな罪を犯すかもしれない。きっと犯すでしょう。それも全部です。何もかもです。どんな罪でも赦されない罪はありません。ただし、例外的に1つだけあります。それはイエス・キリストを信じない罪だけ。これだけは赦されません。なぜならば、イエス・キリストだけが唯一の救いだからです。これ以外に、この方以外に救いはありません。ですから、神の賜物を、永遠の命というプレゼントを、イエス・キリストという救いを、拒否すれば、それ以外には救いようがないわけです。それ以外には手立てがないんです。結果的にはもちろん救われないわけですから、イエスを信じなければ、イエスを受け取らなければ、あなたはもう永遠に滅びる以外に道はないんです。残念ですけれども。受け取りを拒否すれば、それはあなたの選択として、チョイスとして、あなた自身に招くことであります。唯一の救済法を蹴ってしまえば、それまでであります。これ以外に救いがないと言われるものを、あなた自身が拒否すれば、神様の側でも救いようがないわけです。でも、あなたがひとたび「私はこんな素晴らしいギフトを頂く者ではありません。何の資格もありません。でも、あなたが下さると言うならば、私は本当に有難く感謝して頂きたいと思えます。全部何もかも私に出来ないことをイエス・キリストが代わりにして下さいました。感謝です。有難いです。私には何の誇りもありません。誇りとするところもありません。すべてはイエス・キリストがして下さいました。」それだけでいいんです。単純に自分が罪人であるということ。単純に私には救い主が必要であるということ。それさえ認めれば、後は簡単です。素直に、ただこのプレゼントを有難く頂戴するだけです。受け取るだけでいいんです。紐付きじゃありません。無条件です。

で、ちょっと横道にそれますがけれども、**ローマ書**の中で**8章**というところを開いてみて下さい。もしあなたがこの神の賜物を受け取りたいと考え始めて、実際にそうしたいと今思っているならば、その前にちょっとお時間を下さい。この賜物を受け取ると、素晴らしいボーナス特典がついていますよ、というふうなますます受け取りたくなるようなアプローチを、まあこれは、私なりの横道にそれるアプローチですけども、まず**ローマ8:1**のところを見て下さい。『**こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。**』イエスがあなたのすべての罪を十字架の上で精算して下さいました。代わりに死んで下さったので、代償を全て支払って下さったんです。すべての借金は全部イエスがあなたの代わりに弁済して下さいました。ですから、もうあなたはイエスを信じた以上は、この賜物を受け取った以上は、決して罪に定められることはありません。断罪されることはないんだと、ここにはっきり宣言されています。**キリスト・イエスにある者**、イエスを信じたクリスチャンは、もう今後、金輪際、永遠において常に定められることは絶対にないと言う約束です。あなたが神の賜物を受け取ると、こんな素晴らしい特典がありますよ。

山火事においてこれ以上、それ以上延焼をさせないために、延焼を防ぐために、ある手段が取られます。これは英語では**back burning**という言葉があるんですが、日本語にはそれに相当する言葉がありません。カリフォルニアにいた時によく私は山火事の被害をそばでも実際に体験しましたけれども、この**back burning**というのがどういうものかと言うと、あらかじめ燃えて欲しくないところ、もちろん自分の家が燃えて欲しくなければ、自分の家の周りを焼いておくんです。地面を焼いておくんです。焦がしておくということです。そうすると山火事が起こっても、一度燃え尽きてしまった、焦げついた、灰となったところに火はつきません。でもその前に焼かなくてはいけないんです。なぜそんな話をしたかと言うと、あなたの罪のためにイエス・キリストが神の怒りの炎を受けて下さったんです。あなたの代わりにこの方が、火の中に入って下さったんです。あなたが火傷しないように、あなたが焼死しないように、丸焦げになら

ないように、イエスがあなたの代わりに火の中に入って下さったんです。十字架の上で一身にその神の罪に対する怒りの炎を受けて下さったんです。そのイエスをあなたが信じるならば、もう、あなたを焼くものは他にないと言っているんです。それ以上延焼はありません。もうあなたは罪に定められることはないんです。クリスチャンになって罪を犯しても心配要りません。すべての罪はイエス・キリストが十字架の上で負って、もうその罪は焼かれたからです。あなたの過去の罪でくよくよしていないでしょうか。いつまでもその罪に縛られていないでしょうか。どうしてもあの時のことが忘れられない。いつも思い起こされて、いつでもそこに引きずり込まれてしまう。イエスを信じれば、そこからあなたは解放されます。すべての罪は、もうあなたを二度と焼くことを致しません。

で、ローマ 8:28 に『神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。』あなたの過去の罪も完全に処理されます。もう二度と罪に定められることはありません。過去の面において、金輪際断罪されることはないと言いました。でも現在においても素晴らしいことが確約されます。素晴らしいボーナス特典です。もしあなたがこの神の賜物を受け取るならば、です。神がすべてのことを働かせて益として下さいます。何があってもあなたはもう動じることはありません。どんなことがあなたに降りかかっても、あなたは恐れる必要がありません。今の生活において、あなたはもう何の不安も、何の悩みも、何の心配もなくなると言っているんです。過去についてもクリヤーになります。現在についてもクリヤーになるんです。「私は毎日いつでもイライラしています。欲求不満なんです。先のことを考えると、もうお先真っ暗で、先行き不安なんです。」でも、イエスキリストを信じるならば、全てのことは神様が働かせて下さって益として下さいます。あなたは二度とイライラする必要はなくなります。あの欲求不満から、フラストレーションから解放されるんです。

もう一つ 32 節を見て頂くと、『私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょ。』何があっても安心です。何があってもあなたはもう不満を抱くことがなくなります。なぜならば、神様はもう最高のもの、最善のもの、最大のものであるイエス・キリストというお方を、ベストをあなたに与えられたからです。神様が下さらないものは、もう他にないと言っているんです。もう、最高のものが与えられているんですから、「あれがない、これがない、どうしよう。これから先、老後が心配です。年金が 2 兆円も流用されたらどうしよう。消費税を上げられたらどうしようとか。」最近のニュースで、皆さんは一抹の不安を覚えているかもしれません。「でも、心配なんです。」神がすべてのことを働かせて下さいます。神様はあなたにベストを与えて下さいました。

あなたが子供に高価な一眼レフのデジカメをプレゼントしたとします。子供は喜びました。「こんな高価なデジカメ、もらっていいんですか。」「いいよ。あなたのために数ある中から選んで買ってあげたんだから。」「でもこんな高い物、いいの。」「いいんです。」で、プレゼントを開けてみました。で、実際にすぐ使ってみようと思いました。ところが、そのカメラには電池が付いていませんでした。子どもはそのカメラが使えないので、困った顔をするんですが、あなたは電池がないそのカメラを「あ、使えないんだったらお店に返してくる。もうあなたにはあげない。電池がないから、使えないから、返品してきます。」と、そんなことをあなたはもちろん、気が狂ってない限りしないはずなんですけれども。なぜそんな馬鹿げた話をしたかという、神様がもうベストを与えたんです。最高のものを与えたんです。電池がないからといってガタガタ騒ぐ必要はありません。必要ならば、神様は電池も下さいます。「あ、電池がないの。じゃあ、すぐ買ってきます。」と言って、あなたは喜んで電池を買ってすぐにでもデジカメを使えるようにスタンバイさせてあげると思います。それなのに、あなたは「今週どうしよう。支払いどうしよう。ローンがどうしよう。」とか、自分の健康のことでも不安を感じて「人間ドックでこんな影があった。どうしよう。困

る。将来、元気で人生を謳歌したかったのに。こんな病気を抱えては、もう人生もお先真っ暗です。」とかですね。御子が与えられているのに、どうして私たちは「あれがない、これがない、あれを失った、これを無くした。」と大騒ぎするのでしょうか、パニックするのでしょうか。御子を神の賜物として受け取るならば、あなたはもうそういう不安から、そういう恐れから、そういう悩みから、そういう欲求不満から、完全に解放されるんです。素晴らしいですね。

さらにこの終わりのローマ 8:38~39 のところも見て欲しいと思います。『³⁸私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、³⁹高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。』過去において、私たちはもう罪に悩む必要はありません。罪悪感、罪責感に引きずられることはありません。二度と罪に定められることはありません。金輪際、断罪されません。そして現在においても、あなたはもうイラつくことも、欲求不満も、ありとあらゆる不安も恐れも、心配事、思い煩い、何もかも、現在の問題からも解放されます。そして未来においても、将来においても、何があっても神の愛からあなたは引き離されません。「もしあなたがこの神の賜物を喜んで受け取るならば、素晴らしいボーナス特典が目白押しですよ。」と、あなたは伝えることが出来ます。あなたが、これから先どんな過ちを犯そうとも、間違った方向に進んでしまうことがたとえあったとしても、弱さを抱えてしまったとしても、大丈夫です。神様はあなたを見捨てません。ある地点からある出来事を通して、神の愛がなくなってしまう、消えてしまう、差し控えられるということは絶対にありません。何があってもキリスト・イエスにある神の愛からあなたを引き離すことは絶対にありません。

と、ボーナス特典を謳った上で、その上で「あなたはこの神の賜物を受け取りたいですか。今まで私が話したこと、この聖書に書かれていることが、全部本当だとあなたが今信じる事が出来ます。」と言うならば、最後の『ローマ書の道』10章の方に進んで頂きたいと思います。9節を見て欲しいと思います。『なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。』と。「どうやったらその素晴らしいボーナス特典がいっぱい付いているこの神の賜物を受け取ることができるのでしょうか。今まで聞いたことを全部真実であるならば、どうしたらいいのでしょうか。」まあ、平均的な人は、これをしなきゃいけない、あれをしなきゃいけないという、いわゆる律法主義、戒律主義が染みついておりますので、「タダで受けられるはずがない。」とか、「タダほど怖いものはない。何かヒモ付きじゃないですか。受け取った途端に何かやらされるんじゃないですか。」とか、「縛り上げられるんじゃないですか。縛りつけられるんじゃないですか。」と恐れてしまうものですが、聖書にはこんなにも単純に、こんなにもシンプルに、そのプレゼントをどうやったら受け取ることが出来るのか、書いてあります。で、そうしたいいわゆる律法主義の性質・傾向を持った平均的な人たちに対しては、ちょっとその前にある節も読んであげるといいかもしれません。それは6節からです。『⁶しかし、信仰による義はこう言います。』行いによる義ではありません。信じるだけで救われるという信仰による義です。これがキリスト教信仰の特徴です。キリスト教以外のいわゆる人間の作った宗教は、すべて行いによる義です。行為義認の宗教です。キリスト教だけが信仰義認です。まあ、キリスト教だけと言っても語弊はあります。例えばローマカトリックも行為義認です。7つの秘跡をしなければ救われないということを言いますので、例えば洗礼を受けなければ救われないとか。それは聖書的ではありません。でも、聖書はバプテスマを受けなくても、洗礼を受けなくても、イエス・キリストを信じるだけで救われる、義と認められると書いてあります。まあ、いずれにしても、ここでは6節から、いわゆる「何かをしなければ救われないんじゃないですか。」という染み付いたその律法主義者たちに対して、『⁶「あなたは心の中で、だれが天に上るだろうか、とってはいけない。」それはキリストを引き降ろす

ことです。7 また、「だれが地の奥底に下るだろうか、とってはいけない。」それはキリストを死者の中から引き上げることです。8 では、どう言っていますか。「みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは私たちの宣べ伝えている信仰のことばのことです。』どっか高いところに行かなくても、どっか低いところに行かなくても、どっか遠くに行かなくても、苦行を積まなくても、大きな犠牲を払わなくても、あなたはいつでもどこでも救われます。「信仰の言葉は、あなたに救いをもたらすこの神の言葉は、ごくごく身近にある。あなたの口にありますよ。もうそこにあるんです。既に神の救いは、あなたの一番近いところに備えられていますよ。」と、言っているわけです。単純にあなたがこの信仰の言葉を、すなわちイエスは私の罪のために十字架に掛かって、死んで下さいました。そして私を永遠の滅びから、永遠の命へと移して下さいました、イエスは甦って下さいました。「信じます。聖書にそう書いてあることを私は信じます。神がそう約束されたことを私は信じます。それだけでいいんです。心の中で信じて、そしてそれをあなたは自分の口で告白する。「聖書に書かれている通りです。」と、告白する。「これは事実です。アーメンです。」と、告白する。それだけで、あなたは救われると、ここに約束されています。「私はこのイエスを信じたいと思います。」口で告白して、罪人の祈りを一緒に捧げたいと思います。」と、実際に口で告白して、実際に罪人の祈りをクリスチャンの人の後について復唱して祈ります。

でも、その後に信仰告白をした、その直後。または罪人の祈りを捧げて、まあそれを云わば信仰告白として祈って、その結果、その後、その直後「何も感じません。本当に自分は救われたんですか。よく分かりません。ちょっと信じられません。」と思い始める人もいるかもしれません。その人に最後の『ローマ書の道』のゴールを見せて欲しいと思います。救いのゴールです。ローマ 10 : 13 『「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。』口で信仰告白をして、罪人の祈りを復唱して、声に出して祈ったその人が、「いやー、でもやっぱり分かりません。本当に私は救われたんでしょうか。本当に私はこれでクリスチャンになったのでしょうか。ちょっと確信が持てません。よく分かりません。本当なんですか。」と迷いが出てきた時に、この 13 節を読ませて、「この中の“だれでも”とは、いったい誰のことですか。」と質問してあげて下さい。「その“だれでも”にはあなたは含まれませんか。それとも含まれていますか。」「いやー、当然この“だれでも”の中にはこの私も含まれています。」と。「であるならば、あなたはもう救われました。大丈夫です。主の御名を呼び求める者はだれでも、あなたがどう思おうと、どう感じようと、あなたのフィーリングは関係ありません。」と。「だれでも主の御名を呼び求めるならば、救われるんです。それが事実です。と聖書はそう断言しています。」これをもってあなたは人を罪の滅びから、イエスの与える永遠の命へと、救いへと導くことができます。

で、最後に読んだこのローマ 10 : 13 は、カギ括弧がついていますので、“主”と言うのは、すなわちヨエル 2 : 32 (『しかし、主の名を呼ぶ者はみな救われる。主が仰せられたように、シオンの山、エルサレムに、のがれる者があるからだ。その生き残った者のうちに、主が呼ばれる者がいる。』) これは開かなくても結構ですが、そのオリジナルのテキスト、その典拠の部分を見て頂くと、そちらでは新改訳聖書では太字の“主”となっています。“主の御名”の“主”というのは、太字の“主”ですから、“ヤーウエの御名”ということです。文語訳聖書では“エホバの御名”です。イエスを主と告白するということは、「イエスはヤーウエだ。」と告白することでもあります。または、「イエスはエホバだ。」と告白することでもあります。もしあなたがこの『ローマ書への道』をエホバの証人の人に伝える時には、是非そこも見せて頂きたいと思います。『あなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。』『「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。』その“主”とは一体誰ですか。イエスを主と告白する者。その主とは一体、もちろん最初はエホ

バの証人であれば「その主はエホバです。」といわゆる父なる神だと。イエスは神ではないと。イエスはヤーウエじゃない、エホバじゃないということなんですが、ただここを読む限り「**だれでもイエスを主と心で信じて口で告白する者は救われる。**」

で、そのバックアップをするための聖句というのが、そのことを立証するための旧約聖書から引用された聖句というのが、**ヨエル 2：32** で、そこは『**ヤーウエの御名を呼び求める者はだれでも救われる。**』イエスをヤーウエと心で信じて、口で告白する者は救われるんです。イエスをヤーウエと（エホバでもどちらでもいいですけども）告白しなければ、あなたは救われないんです。「イエスは神ではありません。神に造られた被造物です。大天使ミカエル、それが受肉にしたのがイエスなんです。」それでは救われないんです。エホバの証人はあなたに「私もイエスを信じています。私もクリスチャンです。」と言ってきます。でも、そうじゃありません。「イエスを主と告白しなければ、あなたは救われていない。そのままではあなたは地獄行きです。」とハッキリ伝えることが出来ます。「考えて欲しいです。」と伝えて欲しいと思います。もちろん、彼らの“**新世界訳**”という偽りの聖書を使ってでもこのことは証明できます。

まあ、このように『**ローマ書の道**』を通して、神様の救いの御計画というものが、実にシンプルに、単純明快に、目の前に広げられているわけです。それを一つ一つ聖句を追いながら、指をさして、実際に彼らの目の前で開いて、あなたが読み上げるなり、またその人に黙読してもらるか、声を出して読んでもらうかして、提示して頂きたいと思います。

それは特別な訓練はいりません。今、私がそれぞれの聖句を読み上げながら、いろいろ補足をしましたが、それは皆さんにただ解説しているだけであって、特別私と今同じような形で伝えなくても構いません。その聖句だけでもいいですから、一つ一つ指をさして、「あなたは罪人です。そして、あなたには救い主が必要です。罪から来る報酬は死ですよ。でも、神が下さる賜物はキリスト・イエスにある永遠の命です。あなたにもこの命が提供されています。死んでもなくなる命です。無意味な人生から解放してくれる命です。本当に意味のある価値のある人生を送りたければ、死んでも怖くないという人生を、間違いなく天国に行けるという保証を持ちたい人生を送りたいならば、是非この神の賜物を受け取って下さい。何もあなたの努力も犠牲も要りません。無条件です。一方的にプレゼントして頂けるものです。それをあなたが有難く頂戴すれば、それだけであなたはすべてを得ます。」と。そのことをただ聖句を追いながら、伝えてあげるだけで構いません。それであなたは福音伝道を、忠実に聖書に基づいて伝えることが出来たという作業が完了するわけです。

でも、聖書も開かずに、彼らの耳障りの良いような、彼らの興味をそそるような話をして、そして何か“罪”ということをやや曖昧にぼやかして、「“罪”なんていうことを言いだせば、それだけで心を閉ざされてしまう。それだけでシャットアウトされてしまう。」そういう人の顔色を見て恐れて、明確に罪という問題を指摘しないならば、その人はいつまで経っても救い主の必要性を覚えません。是非、今**ローマ書**の聖句を参考にして頂いて、実際にノンクリスチャンの前で開いてあげて、読み上げて頂きたいと思います。あなたのノンクリスチャンの身内に対して、家族に対して、親に対して、伴侶に対して、子供に対して、兄弟、親戚に対して。会社の同僚に対してもそうです。色々な人たちは、色々な悩みを抱えています。いろいろな問題・トラブルを抱えて苦しんでいます。葛藤しています。もう死ぬしかないと思っています。「もう私の希望はありません。一生薬を飲み続けるだけです。もう、ずっと病院通いするだけです。」そういう人たちに対して、是非伝えて欲しいと思います。福音はすべての人を救う力を持っています。そしてその福音は実にシンプルなグッドニュースです。是非「どうしても私はこの悪い癖が止められないんです。どうしてもお酒が止められない。タバコが止められない。麻薬が止められない。ギャンブルが止められない。身を滅ぼして家庭まで崩壊させようとする。どうしても不倫が止められない。」そういう人たちに対し

て是非この福音を述べ伝えて欲しいと思います。「もう私たち夫婦は終わりです。もう破綻するしかありません。もう離婚です。」そういう人たちにぜひ福音を述べ伝えて欲しいと思います。「学校でいじめられて、もう学校に行けません。」とか、「先生にあんな酷いことを言われて、もう私は、もう僕は学校に行けません。もう辞めるしかありません。」「会社であんなこと言われて、もう会社には行けません。」そういう人たちに対して是非福音を述べ伝えて頂きたいと思います。彼らが必要なのはカウンセラーではありません。彼らが必要なのは安定剤でもありません。彼らが必要なのはイエス・キリストであります。是非色々なこの世には自分自身を助けるための、救うための、いわゆるセルフヘルプと呼ばれるものがあります。自己啓発セミナーであったり、色々なカウンセリングセミナーであったり、色々な医療、心理学の、精神分析学に基づいたあなたを救ってくれるはずのものがたくさん提供されています。でも罪の問題を解決してくれるのは、イエス・キリストだけだということを知って欲しいと思います。すべての問題・悩みの原因は罪であります。この罪を自分でも、いわゆる専門家でも、エキスパートでも、人間ならば誰でも処置することは出来ないということ。すべての人はやっぱり罪人ですから、罪人は自分自身を救うことも助けることも出来ません。大学教授という肩書きがあっても、医学博士という肩書きがあっても、彼らも私たち・あなたと全く変わらない罪人でありますから、罪人が罪人を救うことは出来ません。福音にこそ人を救う力があるということ。それは永遠の滅びからの救いを限定的に言っているのではありません。死んでから後の話を、気休めのように話しているのではありません。机上の空論のような話を、絵に描いた餅のような話をしているのではありません。実際にこの福音はあなたの今現実抱えている問題、悩み、トラブルから解放してくれる、救ってくれるものなんです。現実には夫婦の関係をこの福音が回復してくれます。現実にはあなたの止められない悪い癖を、悪習慣をこの福音が断ち切ってくれます。現実にはあなたの漠然としたむなしさ、悩み、絶望感、孤独感、全てこの福音が解消して、そして解決してくれます。本当にイエス・キリストというお方は、現実の神。現実の問題に答えてくれる、現実の救い主であります。もし、あなたがこのイエス・キリストに心を開くならば、イエス・キリストはあなたの、信じる者の心の内に住んで下さいます。御霊を通して息づいて下さいます。弱いあなたを助けてくれます。あなたにない力を与えてくれます。あなたに喜びを、あなたに平安を、あなたがおよそ必要とするすべてのものをこの方は与えて下さいます。いつでもこの方はあなたとともにいて下さいます。何があってもあなたを見捨てません。世の終わりまで確実にあなたと一緒にいてくれます。ですから是非福音を述べ伝える際に、ただの理想論を伝えるような、そんな伝え方をしないで欲しいと思います。「信じてくれたらいいのになあ、と思っていますよ。本当にこれはいいお話なんです。聞くだけでもいいですから。」そんな態度ではなくて、「本当にイエス・キリストという方は生きています。あなたの目の前にいます。今ここにいます。あなたの全てを知っています。その上であなたを愛して下さい。そしてあなたといつでも一緒にいたい。あなたと永遠を共に過ごしたい。そこまであなたのことを思っておられます。」極めつけは「その愛は本当なのかどうか疑うならば、あなたの罪のためにこの方はなんと十字架にまでかかって死んで下さったんです。」と伝えることが出来ます。イエス・キリストが信じる者の心の内に実際に住む。これは理想論でも何でもありません。素晴らしい変革が訪れます。今まで味わったことも無いような、人生が180度変えられるような、そんな体験をいたします。人が変わるんです。変えられるんです。何もかもがすべて変わってしまうんです。そんな力があるんです。イエス・キリストの教えをただ伝えるんじゃなくて、イエス・キリストというお方を是非伝え、分かち合っ欲しいと思います。「イエス・キリストというお方は、私の人生も、あなたの人生も一変させてしまう、して下さい、そんなお方です。完全に新しいものに造り変えてしまう、そんな神なんです。」と。「だから、あなたにはこの方が必要なんです。」力強く大胆に確信を持って伝えて欲しいと思います。福音は実にシンプルですから、複雑に考えなくてもいいんです。ストレートに話して下さい。遠回しな言い方、オブラートに包みこむような、言葉を濁すような言い方ではなくて、

ハッキリと伝えてあげて欲しいと思います。あなたのすべてに答えて下さるお方。あなたの全てを変えて下さるお方です。救われるための方法、それを是非伝えて欲しいと思います。「いつか救われたらいいなあ」と思うだけで、祈るだけで、あなたは実際にこの救いのシンプルな方法を知っているんです。にもかかわらず、あなたは直接それを伝えようとはしません。

最後に、これは教会のホームページにも載せたものです。知っている人もいると思いますが、無神論者のペン・ジュリエットという人が、まあアメリカでは有名な人です。日本でも知っている人は多いと思います。コメディアンでマジックショーを行うような人です。ペン&テラーという2人1組のそういうマジックを行うマジシャンのコメディアンでもあります。で、その人は無神論者としても有名で、自分が神を信じていないということは常日頃から公言しております。で、このペンという人は、自分が神を信じていないことを全く恥じておらず、まあそれぞれインタビューの場でも、本にもそのことをはっきりと書いてます。でも YouTube の動画に彼がアップロードしたものがあって、そこにはこういう逸話が彼の口を通して語られております。YouTube で英語で話しているものを、日本語に訳して今皆さんにお伝えいたします。覚えて欲しいことは、この人は完全なる無神論者です。自分が神を信じていないことを、全く恥に思っていない人です。その彼が言うことです。親切なクリスチャンビジネスマンが聖書（これはギデオンの贈答用の新約聖書）をプレゼントしてくれたときの話であります。で、そして彼が言うには、伝道しないクリスチャンは本当は人を憎んでいるに違いない、ということ指摘するために、その目的を持ってこの YouTube の方に動画を投稿したわけです。その中で彼が発言した言葉です。

「俺はずっと伝道しない人なんて尊敬しないと言ってきた。全然尊敬できないね。もし、あんたが天国や地獄があると信じているなら、また地獄に行ったり永遠の命を持ってなくなったりすることがあると本当に信じているのなら、如何なる場合でも伝道するはずだろう。伝道すると社会ではやりにくくなるとか、「相手は俺に構わないで信仰は自分だけのものにしてくれよ。」なんていう無神論者だとかが言った理由で伝道しないのなら、それはおかしい。永遠の命があることを知っていながら、それを伝えないのは、その人を憎んでいるのと同じことだ。どれくらいの憎しみを持てば、伝えないでおられるのかな。例えば、トラックが前方から走ってきて君を轢きそうになる。俺なら君が引かれる前にタックルして君を助けるよ。伝道するかどうかは、トラックに轢かれそうになってる人を助けるかどうかよりも、もっと重大なことだろう。」

これが無神論者の言葉です。そこまで言うなら、イエスを信じて欲しいと私は言いたいんですけども、でも考えさせられます。あなたは永遠の命を知っているだけでなく、持っています。どうやったらその命を自分のものにできるのか、その方法も知っています。にもかかわらず、あなたはそれを伝えません。伝えようとしません。「嫌な顔をされたくないから。拒絶されたくないから。人間関係を失いたくないから。分かってもらえないと思うし。どうせ救われないから。」本当にあなたがその人のことを愛しているならば、相手の反応がどうであろうと、それこそトラックが突っ込んで来るんです。最近あったニュースでも校長の目の前で「おはよう。」と言った、挨拶した、その小学生の団体に、クレーン車が突っ込んで来たわけです。もし、それが逆に見えていたらどうでしょうか。校長の後ろの方からトラックが来たので見えなかったわけです。でも前から明らかに子供の列に突っ込んでくる、それが見てとれたならば、多分校長先生は自分の生徒を命よりも大事に思うでしょうから、自分の身を挺してでも子供たちを守ると思います。タックルしてそれこそ子供を吹っ飛ばして怪我をさせてもいいとも、それぐらいの勢いできつと守ろうとすると思います。私たちも見ています。永遠の滅びが向かってきているんです。彼らはイエスを信じなければ、そのままストレートに地獄に堕ちていきます。にもかかわらず、私たちは福音を宣べ伝えることに躊躇してしまいます。尻込みしてしまいます。怖じ気付いてしまいます。恥ずかしく思います。

で、もう1つ最後に引用したい言葉があります。「イエス・キリストの他に希望はないと信じていて、わずかでも愛や親切心を持ち合わせていたら、この救い主に向けて人々を引き連れて来ようと躍起にならないではいられないはずだ。」と著名な神学者のマイケル・グリーンという人が言いました。イエス・キリストの他に希望がないと、本気で皆さん信じているのでしょうか。わずかでも、ほんの少しでも、その人のことを大事にしている、愛している、そういう思いを持ち合わせているならば、この救い主のもとに彼らを連れてくることをあなたは躍起になるはずだと言っています。もちろん信じるか信じないかは、その人次第であります。人には自由意志がありますから、強制はできません。ただ、強制できないからといって私たちは熱心に、情熱的に永遠の滅びからの救いを伝えないということにはなりません。是非福音を伝える際には、「本当にこの人はこのままでは永遠に滅んでしまう。イエス・キリストだけが本当の救いであり、希望はこの方以外にないんだ。」ということを是非心にしっかりと刻みつけながら伝えて欲しいと思います。クリスチャンだから伝えるのは義務だとか、「一応伝えるだけは伝えておこう。」という程度の思いではなくて、本当に心の底から「この人には最大の危険が迫っている。何とかしなければならぬ。」危機感を持って、差しせまる思いを持って、切迫感を持って伝えて欲しいと思います。もちろん愛を持って伝えて欲しいと思います。愛がなければ何をしてしても値打ちがありません。愛がなければ何の役にも立ちませんから。でもその愛こそ、まさにその人が永遠に滅びることなく、永遠の命を持つ、神の愛です。神の愛は、私たち誰1人滅びることを望まない愛ですから、その愛を持って伝えて欲しいということです。その愛がなければ、どんなにあなたがトラクトを配ろうとも、福音について解説した分かりやすい小冊子をプレゼントしてあげたとしても、ギデオンの聖書を手渡ししても、一生懸命自分で証しも交えた福音をまとめた手紙を書いて送ってあげたとしても、愛がないなら何の値打ちもありません。是非このことを皆さんにも考えて頂いて、そしてまだあなたの身近にこの福音を今のような形で伝えていないという人たちがいるならば、是非すぐにでもそうして頂きたいと思います。「いつか伝えればいい。」その“いつか”はないかもしれません。明日はないかもしれません。是非、間違った伝え方をしていたならば、愛に欠けたような伝え方をしていたならば、「とりあえずこの人には聖書も送ったし。とりあえずこの人には power for living も送ってあげたし。とりあえずこの人は教会にも誘ってあげたし。あとはもうその人の自由だから。その人の勝手だから。」そこで済ませているならば、果たしてそこには愛があるかどうかもう一度考えて頂いて、何度でもいいですから、愛をもってこの福音を伝えて欲しいと思います。聖書には「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くて悪くても。」とあります。“時が良くて悪くても”というのは、相手の顔色を見て「今は受け入れられそうな顔をしているから。」とか、「今はそんな福音を聞くような状況にないから。」とか、「イエスキリストの話聞いてもらえそうもないから。」というふうに勝手に判断しないで下さい。“時が良くて悪くても”、英語の聖書では「シーズンであっても、シーズンでなくても」です。ですから是非そのことも考えて頂いて、私たちは相手の顔色を見る必要もありませんし、そしてどんな拒否反応を示されても、それが「シーズンじゃない。今語っても逆効果だ。」と思えるような時でもです。限定はされておられません。“時が良くて悪くても”です。御言葉を伝えて欲しいと思います。聖書の言葉そのものにどんなに力があるのか。いつでも確認して下さい。いつでもそのことを確信して下さい。そうすればあなたの語ることも、実にシンプルになって、「聖書の言葉そのものでいいんだ。」と。もちろん分かりやすく伝えるということは大事でありますけれども、聖書の言葉を伏せたり、または曲げたり、濁したり、オブラートをかぶせるようにして、耳障りの良いような言い方に変えてしまうならば、力はなくなるということも併せて覚えて欲しいと思います。是非、聖書の言葉そのものを信じて、福音を特に今日の『ローマ書の道』。これは古くから使われてきて、そして多くの人を救いに導いた伝道方法であります。『4つの法則』というものもあります。そこでも聖書言葉がそのまま使われております。マニュアルが人を救うんじゃありません。イエス・キリストが人を救うんです。「信仰は聞くことから始まり、聞く事はキリストについての言葉

による。」と聖書にあるように、是非この言葉を、神の言葉を伝えて欲しいと思います。では今日はこれで終わりたいと思います。